

モーセ大学 第6期 第4回 「パウロ」
聖書箇所（新共同訳）

ローマの信徒への手紙 4：1 - 9

1 では、肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たと言うべきでしょうか。2 もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。3 聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。4 ところで、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされています。5 しかし、不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。6 同じようにダビデも、行いによらずに神から義と認められた人の幸いを、次のようにたたえています。

7 「不法が赦され、罪を覆い隠された人々は、幸いである。

8 主から罪があると見なされない人は、幸いである。」

9 では、この幸いは、割礼を受けた者だけに与えられるのですか。それとも、割礼のない者にも及びますか。わたしたちは言います。「アブラハムの信仰が義と認められた」のです。

詩編 32：1 - 2

1 【ダビデの詩。マスキール。】

いかに幸いなことでしょう

背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。

2 いかに幸いなことでしょう

主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。

創世記 15：5 - 6

5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

ローマの信徒への手紙 3：28

28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

ガラテヤの信徒への手紙 1：14 - 17

14 また、先祖からの伝承を守るのに人一倍熱心で、同胞の間では同じ年ごろの多くの者よりもユダヤ教に徹しようとしていました。15 しかし、わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、16 御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされたとき、わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、17 また、エルサレムに上って、わたくしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのでした。

フィリピの信徒への手紙 3：5 - 7

5 わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、6 熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。7 しかし、わたしにとって有利であったこれらのこと、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。

ガラテヤの信徒への手紙 2： 16

16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。

コリントの信徒への手紙二 12：9

9 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。